

# 学校給食センター建設調査

# 特別委員会報告

## 給食センターの現状

施設名	建築年	敷地面積(㎡)	建築面積(㎡)	給食数(食)	年間経費	今後改善が必要な事項
川辺給食センター	S53年	2,265	797	1,268	5,626万8千円	ウエット方式からドライ方式へ換気扇の取替など
知覧給食センター	S44年 (H2年改修)	2,016	583	1,181	7,302万3千円	ウエット方式からドライ方式へ休憩室事務室の拡張など
穎娃給食センター	S48年	2,103	471	1,193	7,767万1千円	ウエット方式からドライ方式へ排水処理施設の設置など

## 給食センターの統合計画

建設地	建築年	敷地面積(㎡)	延床面積(㎡)	給食数(食)	事業費	備考
知覧	H22年・23年	7,000	2,518	3,500	13億300万円	ドライ方式 H23年9月開始予定

## 視察研修先の現状

研修先	建築年	敷地面積(㎡)	建築面積(㎡)	給食数(食)	実質事業費	備考
鹿屋	建築中	7,641	2,732	6,000	14億1,300万円	ドライ方式 10年前から計画し十分な協議
志布志	H20年	6,425	2,148	3,000	8億1,900万円	ドライ方式 2センターで運営中(将来1センターで運営予定)



志布志市給食センターでの視察

志布志市は10年かけて建設に着手している。住民の意見を取り入れず、急ぎすぎである。  
 ◎ドライ方式前提で進めているが、ウエット方式でもドライ運用を図ることにより、新衛生管理基準に適合する。短期間の検討で、事業費13億円は財政を圧迫する。一本化は中期的な視点に立ち進める

### 委員会の意見集約

一、事業費について視察研修先(鹿屋・志布志)と比較し、極めて高額であり、事業費削減が望まれる。  
 一、現行雇用者の身分保障及び雇用を確保すること。  
 一、関係機関との協議の場がなく、理解が得られ

### 個別の意見

れていないので、十分な協議を求める。  
 ◎3センターとも老朽化が著しく、行財政改革の観点から統合し建設すべきである。  
 ◎穎娃給食センターは、老朽化が著しいことから新たに建設し、2センターは施設改修により維持すべきである。  
 ◎鹿屋市は10年かけて建設に着手している

### 結び

各委員の見解が異なることもあり、学校給食センターの是非などについては特別委員会としての判断を示さなかつたところである。  
 ◎予算決定していないのにプロポーザル方式により業者が内定している。このような進め方は、適正であるべき業者選定において、誤解を招く恐れがある。  
 ◎財源充実に当たっては過疎債を含め十分協議し、より有利な事業を導入すること。

※ドライ方式 作業をする調理台の上や床などは常に乾いた状態。  
 ※ウエット方式 釜を洗ったときにこぼれた水などで、床は濡れた状態。